

12月の俳句 わが前をわが影急ぐ十二月

有山 八州彦

授業参観、保護者会では大変お世話になりました。実際に授業を見ていただくことで、お子さんの学校での様子を知っていただくことができたと思います。また家庭教育学級では、宇都宮大学の松本敏先生より、「これからの子どもに必要な学力と家庭教育の重要性」という演題でお話しをいただきました。当日、参加されなかった方もいらっしゃると思いますので、要旨を下のらんに簡単にですがまとめておきました。自分自身納得させられることも多く、参考にさせていただければと思います。



授業参観の様子

1 家庭教育学級 宇都宮大学松本敏先生の講話 「これからの子どもに必要な学力と家庭教育の重要性」

松本敏先生は、宇都宮大学教育学部附属中学校長として、実際に長く学校の経営に関わった経験もあり、県内の多くの小中学校で教員や保護者対象に多くの講演を行っています。本校でも昨年、教職員の研修に来ていただきお話しをいただきました。

先生のお話は、勉強は大切だけれど、将来の生き方に役に立つ学習でなければならないことを前提にされていました。現在も絶え間ない技術革新があり、情報通信技術やAIの発達と急激なグローバル化が進んでいます。多くの子ども達は、今はまだ存在していない職業に就く可能性があります。現在の仕事の中でコンピュータやロボットができるものは、交代が進み、人間はコンピュータやロボットができない仕事に就くようになるでしょう。そのため

に求められる資質・能力は
知識を活用できる力（知識そのものは容易に検索できる）
柔軟な思考力・判断力・表現力（初めて出会う問題に立ち向かうことができる）
チームで学習し創造し成果を挙げる（異質なものと協働できる）

と、話されていました。

また、どうすればそういう力がつくかということで、全国学力学習状況調査の例をあげ

①「あたりまえ」を実践し続ける「まじめさ」…自主学習ノート、生活ノート、無言清掃

②教師と子どもの関係性…見守り、期待、鍛え、努力

③家庭と地域の応援

④安定した生活、高い幸福感・倫理観 をあげてくださいました。

むしろ楽しいことを行うことはなく、感覚や感情をきちんと育て、落ち着いた家庭にする。決まりや約束を守る親子関係をつくり、できたら必ずほめる。長所も短所も正面から受け止め、「いいよ、いいよ」ではなく、体験を親子で振り返り、「○○だったね」と話し合うことなどです。

紙面では、先生のお話のごく一部しかお伝えできませんが、学校では先生のお話のように、思考力・判断力・表現力を育成する授業への転換を図っています。従来の基本の反復も必要ですが、ぜひ、お子さんの意欲・能力を高められますよう、ご理解・ご協力をお願いします。



左・中：松本先生の講演 右：永島先生の離任式

2 永島先生の離任式

1月30日（金）、薬物乱用防止教室の後に永島先生の離任式を行いました。永島先生には、6月末から約5ヶ月お世話になりましたが、11月で本校の勤務を終わり、今月からは、他校での勤務となります。全体の離任式の後も、副担任としてお世話になった1年生、国語の授業でお世話になった2年生がそれぞれに、お別れの会を開き、名残惜しい日になりました。

なお、12月より栗山慶太先生が1年生の副担任、2年国語科を担当いたします。よろしくお願いいたします。

3 人権集会

12月10日の世界人権デーにちなみ、今週は人権週間として、人権感覚や人権意識の高揚を図り、人権教育を推進しています。12月5日（水）は人権集会として、下野市人権擁護委員の秋山委員さん、生澤委員さんをお招きしお話しをいただきました。

また、10月に壬生町生涯学習館で意見発表をした鈴木孝佳君、小川徳斗君から、「子どもの貧困について」というテーマで、アフリカのガーナの子どもの実態から、教育が子どもの生活に重要であるという発表をもらい、全校生徒に聞いてもらいました。

我々教職員も含め、社会の一員として人権感覚を磨き、より人権意識を高めるよう努力していきたいと思ひます。



左：永島先生と2年生のお別れ会

中・右：人権集会

4 薬物乱用防止教室の感想

11月30日（金）に行われた薬物乱用防止教室の感想を3年生から紹介します。

私は、今回の薬物乱用防止啓発演劇を見て学んだことは2つあります。1つ目は薬物を使ってしまうと必ずやめられなくなるということです。私は薬物を使うとどんな症状がでるか知りませんでした。2つ目は、種類がたくさんあり、使うとつかまってしまうことを知りました。私は今回の演劇を見て、もし「つかわない？」と言われても絶対に断ろうと思ひます。あの警察官は劇団の方だったこともびっくりしました。「持たない」「使わない」「近づかない」を忘れずに生きていこうと思ひました。

演劇を見て、危険ドラッグの危険性や効果がわかりました。1回だけと思ひて使っても、1回使ってしまうと、もう1回だけと繰り返し何回も使ってしまうので、絶対に使わないようにしたいです。そして、もし使ってしまったら、1人で悩まず、親や先生、病院の先生に相談したいと思ひます。危険ドラッグには多くの種類があることがわかりました。違法でなくても体に悪いものは使わないようにしたいです。

私は今日の薬物乱用防止教室で改めて危険ドラッグなどの薬物を使うのはよくないと感じました。劇団三十六計の方々の劇を見て（主人公の名前がゆうきなので）、自分の名前をたくさん呼ばれている気がして、内容がよく入ってきました。私は、もし先輩に「薬物をやってみない？」と言われても、断りたいと思ひます。いくら先輩を信用していても、1度使ってしまったら、また繰り返し使ってしまうので、絶対に断りたいです。「持たない」「使わない」「近寄らない」ということを頭の中に入れて、これから生活していきたいです。

3年3組 田村 勇輝